



## ロンダ・テイテル＝ペーン

Ms. Rhonda Teitel-Payne

NPO トロント・アーバングロウーズ コーディネーター  
Co-coordinator, Toronto Urban Growers (TUG)

### プロフィール

ロンダ・テイテル＝ペーン氏は、NPO「トロント・アーバングロウーズ (TUG)」のコーディネーターとしてトロント市や地域組織と連携し、政策と都市農業事業開発との調整に努めています。TUG に従事する以前は、「ストップ・コミュニティ・フードセンター」で14年間、都市農業や地域社会食料プログラムの調整と管理を行っていました。

テイテル＝ペーン氏は、トロント・フードポリシー・カウンシル (TFPC)、トロント・コミュニティ農園ネットワーク、トロント市公園・レクリエーション局コミュニティ農園諮問委員会、トロント都市農業アクションプラン「GrowTO」を通じて、市全体のフードセキュリティの取組に貢献してきました。テイテル＝ペーン氏自身も、“都会の中にあるジャングル”のような裏庭で、日々土いじりを行っています。

### 事例紹介

#### ①高圧線下の土地を利用した「地域社会貢献・経済開発農園」(CEED 農園)

トロントで農産物の栽培を行う人にとって、費用や政策面、利用できる土地の確保が大きな課題となります。CEED 農園は、トロント市、NPO および公益事業会社ハイドロ・ワンと連携して、ハイドロ・ワンが持つ高圧線下の土地に都市農園を作る試験的プロジェクトです。2つあるCEED 農園は、低所得地域に住む海外から移住してきた人達に対して、出身国の文化に適した新鮮な農産物を提供するとともに、新規就農者の取組を支え、様々な支援を行う場となっています。



#### ②トロント「種子の土曜日」

様々な種子を後世に受け継いでいくことを目的に、カナダ全土の地域コミュニティで、種子の交換イベントが催されています。その中で栽培者たちは希少種や伝統種の種子を保存するよう奨励されています。トロントでは、低所得地域でも種子を入手することができるように、毎年、複数の場所で「種子の土曜日」を開催しています。このイベントは、社会的なつながりを学ぶとともに構築することができる良い機会でもあります。多様な人種がいるトロントの人たちに貢献できるよう世界各国から多くの作物の種子を備えることが目標です。

#### ③都市農業のネットワーク化と促進

都市で栽培を行っている人達が、互いに学び、他のプロジェクトから刺激を受けたいと熱望していても、物理的な距離によりお互いが顔を合わせるのには難しいのが現実です。NPO「トロント・アーバングロウーズ (TUG)」は、Google グループや SNS、市内随所で開催されるイベントなどを通じて、交流によって互いが学べる機会を多く提供しています。ウェブサイトでは、栽培者たちが写真を掲載して自分の知識を紹介しており、トロント大都市圏において都市農業が行われている場所を示した地図も掲載しています。毎年恒例の祝祭である「トロント都市農業週間」は、人々の健康を改善して、強い地域社会を育て、緑豊かで活気に満ちた都市を創造する都市農業の持つ力強さを伝えます。



## ジェームズ・クーンズ

Mr. James Kuhns

NPO トロント・アーバングロワーズ コーディネーター  
Co-coordinator, Toronto Urban Growers (TUG)

### プロフィール

ジェームズ・クーンズ氏は、20年間、都市農業やフード・セキュリティ等、都市農業関連の活動に携わってきました。また、トロント農業プログラムの開発に繋がった「GrowTO」の都市農業イニシアチブのコーディネーターも務めていました。クーンズ氏は、アメリカ・コミュニティ農園協会の元会長でもあり、「トロントの都市農業のスケールアップ：インフラ構築」の共著者です。現在はライアソン大学のフード・セキュリティ・センターの協力研究員を務め、都市農業に関する講座の教鞭をとっています。

### 事例紹介

#### ① ストップ・コミュニティ・フードセンター

ストップ・コミュニティ・フードセンターは、「成長する地域コミュニティ・食生活に変化を」を合言葉に活動しています。30年以上前に、緊急時に食料を提供するためのフードバンクとして始まった組織ですが、今では、食料を通して人々を結びつけ、不平等に対抗するカナダの主要組織の一つに成長しました。健康的な食料を扱うフードバンク、困っている人に食事を提供する場所、コミュニティ・キッチンおよびファーマーズマーケットの運営を行っています。また、ストップ・コミュニティ・フードセンターは、複数の農園、温室、オープン釜を有し、堆肥づくりのデモンストレーションも行っています。「ネイティブ・メンズ・レジデンス」という団体と共に運営される「マシュキキイ；アキイン」という名の車輪の形をした薬草園では、先住民族の教えを用いた植物療法や健康的な生活について学ぶことができます。

#### ② サン・ロマーノウエイ農園

サン・ロマーノウエイ農園は、都市農業の多様な機能を示す優れた事例です。この農園は、地域レベルでの都市再生、社会的なつながりの形成、海外からの新規移住者の取り込み、技術開発、環境改善に貢献しています。トロントの郊外には老朽化した高層マンションが数多く存在しており、多数の海外からの新規移住者が最初に住む場所になっています。そのようなマンションの近くに、サン・ロマーノウ農園はあります。この農園には、コミュニティ農園、子供農園、障害者が利用できる農園、ミツバチ等の花粉媒介生物のための農園、都市果樹園、果樹の手入れの社会事業、園芸と起業家精神の研修などのプロジェクトがあり、複数の協力者が関わっています。

#### ③ アクセス・アライアンス屋上農園

アクセス・アライアンス屋上農園は、6,500平方フィート（約603.8m<sup>2</sup>）を有し、立場の弱い移民や難民が多く住む地域にある地域医療センターとマルチサービス・コミュニティハブ（地域コミュニティの人たちが交流する公的機関の複合施設）の屋上にあります。農園でボランティアに参加する人たちは、土地が取得できない高層ビルに住んでいることが多く、彼らは企画を考え、植物を植え、農園の手入れをしています。農園では、健全な地域コミュニティを育み、新技術を学び、身体的・精神的健康を改善する機会となるようなワークショップ、研修、社会活動を行っています。

